

2019春季生活闘争「連合・先行組合回答ゾーン」における妥結結果を踏まえてのコメント

2019年3月22日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）

連合が「先行組合回答ゾーン」として設定した3月22日までに、JR7単組が会社から回答を引き出し、今次春闘交渉を妥結した。

JR連合及び加盟全単組は、2月5日に開催した第31回中央委員会で、2019春季生活闘争方針を決定以降、「中期労働政策ビジョン（2014～2018）」で掲げたJR関係労働者のあるべき姿を実現するべく、総掛かりの闘争を展開してきた。とりわけ、国内の労働力不足が深刻さを増す中、JR産業における人材の確保・定着を喫緊の重要課題と位置づけ、ベースアップを軸とする月例賃金の引き上げに徹底してこだわるとともに、すべての労働条件や働き方を点検し改善を図る総合生活改善闘争に注力してきた。また、JR産業を支えるグループ会社や協力会社等で働く仲間の労働条件についても、「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を前面に押し出し、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分や、労働条件向上にむけた原資の創出を従来以上に強くJR各社へ求めた。そして、JR労働界において未組織労働者が多数存在している異常事態を踏まえ、JR産業における民主的な労働組合と健全で建設的な労使関係の重要性を内外に発信するなど、春季生活闘争を通じた組織拡大、JR連合への総結集の実現にむけた取り組みも展開してきた。

その結果として、3月13日にJR西労組が「ベア1,000円、年間臨給5.48ヶ月」等、14日にJR東海ユニオンが「ベア1,300円、夏季手当3.05ヶ月」等、15日にJR九州労組が「ベア300円（嘱託再雇用社員・地域社員200円）、夏季手当2.56ヶ月、地域社員の基本賃金表の見直し」等、JREユニオンが「ベア平均1,050円（所定昇給額×1/6、グリーンスタッフ・エルダー社員500円）」、貨物鉄産労が「ベア200円、55歳以上の社員の賃金改善措置」等、JR北労組が「新規採用者・医療社員の処遇改善、諸手当の増額・支給範囲の拡大」等、20日にJR四国労組が「諸手当の増額、エキスパート社員の処遇改善、夏季手当1.89ヶ月」等の回答をそれぞれ会社から引き出し妥結した（7単組とも定期昇給については完全実施）。

連合が設定した「先行組合回答ゾーン」に、JR7単組が会社から回答を引き出し妥結したことは、連合「交通・運輸共闘連絡会議」に所属するJRの責任産別として、一定の社会的役割を果たし得たものと認識する。そして、大手企業の多くが前年を下回る回答を示す中、ベースアップをはじめとする月例賃金の引き上げや夏季手当（年間臨給）の増額、諸手当の改善、若年齢層や高年齢層及び非正規社員の処遇改善などの成果を獲得したことは、これまで築き上げてきた健全で建設的な労使関係を基礎として、JR各社が各単組の要求・主張に一定の理解を示した証左であり、職場で奮闘する組合員の負託に応え得ることができたものと認識する。

JR連合は、JR7単組の妥結結果を踏まえ、これからヤマ場を迎える多くのグループ労組の交渉に波及させ、JR産業で働くすべての労働者の期待に応えるべく、総力をあげて取り組む。